

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用Ⅰ 絵画Ⅱ-2グリザイユ技法(人体)	実習	中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとして「明度」を優先した伝統的な制作技法を理解する。 不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。
----------------------	---

授業の内容	期間:5/7～22 AM/PM 計20コマ ・着衣の女性モデルをモチーフに、グリザイユ技法で油彩画を制作(F15号)する。 ・絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとしての側面を理解していく。 ・不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。 ・木炭によるデッサンから始め、油絵具のシルバーホワイトとピーチブラックの白黒の2色のみで描いていく。 ・形体と空間、材質感など油絵で描くデッサンとしてひとまず完成させる。 ・モノトーンの絵画として描き終えた後、透明度の高い有彩色で色彩を整える。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
3	5/7 前提講義 制作
4	制作
5	制作 5/22講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
・F15～20号キャンバス ・クロッキー帳 ・木炭 ・油彩用具一式(白色絵具はシルバーホワイト、黒色絵具はピーチブラックを用意) ・アルキド系速乾メディウム	コスチュームモデル(女性) (ドレープやヒダがある服など) モデル台

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	
必修	デッサン応用Ⅱ 絵画Ⅱ-1 静物表現研究	実習	清水健太郎	
授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画制作において、目の前の対象の中に潜む造形的に魅力ある要素を見つけ出す力を養うとともに、それらを如何に発展・展開するかを模索することで豊かな絵画的表現力を高める。			
授業の内容	期間:4/14～4/24 AM/PM 計16コマ ・静物モチーフに内在する「光と影」「虚と実」「内と外」などを造形的対立要素として扱い、それを基に独自の絵画表現を試みる(F15号)。 ・様々な名画を通して、造形的要素がどのように活用されているかを紹介。 ・ドローイングを通して、対象の特性把握や、表現の方向性を模索する。 ・油彩を中心とした描画を通して、色彩やタッチなど絵具固有の表現効果の展開性を探る。 ・復習として、画材についての基本的な扱いや特性についての説明、キャンバスの張り方なども実習する。			
週	授業計画 及び 学習の内容			
1	4/14画材オリエンテーション (油彩画用具についての解説や授業前提講義) 4/15キャンバス張り実習 制作			
2	制作 4/24講評			
成績評価の方法				
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
別紙参照				
授業持ち物		学校で準備する教材など		
・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ※F15号キャンバス(キャンバス布と木枠)は学校で用意します(有料) ※キャンバス張りを実施		・ドローイング用クラフト紙 ・モチーフ(牛骨・鏡・観葉植物や流木・トルソ・石膏像など) ・モデル台×4 キャンバス張り器・タックス 金づち・木槌・霧吹き ※キャンバス布と木枠(人数分)		
配付資料				

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用Ⅲ 絵画Ⅱ-3細密描写	実習	佐藤功

授業の到達目標 (目標とする検定)	目の前のモチーフに迫るような描写表現を通して、対象への観察眼を深めると共に、描写における技術的な充実度や新たな表現的発展性を高める。 また、表現テーマとモチーフの関係性や、独自の視点の在り方についての意識を高める。
----------------------	--

授業の内容	期間:5/26～6/12 AM/PM 24コマ ・自身が興味のあるモチーフを用意し、細密的描写による静物画を制作する。 (モチーフは基本的には持参する) ・様々な名画を通して、「描写」表現がどのように展開されてきたかを紹介。 ・細密描写が容易になる下地作り ・支持体への鉛筆による下絵描画、アクリル絵具での下絵の描き起こしの後、油彩による描画を行う。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
6	5/26前提講義 支持体準備・デッサン・制作
7	制作
8	制作 6/12講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 ・描きたいと思うモチーフを持参する(前提講義を聞いた後でもよい) ※学校からのモチーフの貸出も可能 ・デッサン用具(各種鉛筆、消しゴム等)・画用紙(使用する支持体と同程度のサイズにカット) ・油彩用具一式(筆の種類などは前提講義後でもよい) ・黒のアクリル絵具、細めの面相筆(水彩筆、デザイン筆など可) ※支持体(F8号木製パネル)や下地制作材料は、学校で用意します(有料)	学校で準備する教材など ・モチーフ ・モチーフ台 ・布や背景用パーテーション ・カラージェッツ数色 ・支持体及び下地制作材料や用具など
配付資料	

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	前期

授業の到達目標 (目標とする検定)	モチーフの固有色に捕らわれることなく色彩に対する柔軟性のある発想力と応用力を鍛える。 また、絵具の物質性にも注目し、水性・油性の特性や扱い方、表現的可能性についての認識を高める。
----------------------	--

[illegible]

・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

別紙参照

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	
必修	造形表現演習Ⅰ 絵画Ⅱ-4絵画空間研究(平面化)	実習	菊地達也	
授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画の具象抽象問わず普遍的な表現手法でもある「平面化」を実践し、 抽象の入り口に赴き、更にはその鑑賞能力を高める。			
授業の内容	期間:6/16～26 AM/PM 計16コマ 近代以降の絵画における空間表現の一つである「平面化」を試みた作品(20～25号)制作します。 「平面化」は、現代でも用いられる空間様式ではあるが実は決して新しくありません。ルネサンス以前の絵画は遠近法の未発達もあって、空間意識が異なり結果的に平面になっています。そのルネサンスによって確立された空間も1世紀も経つと遠近法に縛られない絵も出現し、数世紀後にはキュビズム台頭によってメインストリームから外れていきます。つまり絵画の歴史を辿ると、むしろ平面傾向の時代が長く、三次元的な空間を意識したのは数百年程度だったと考えられます。今では1部のジャンルにその影響を残しますが、現代の平面化はルネサンス以前と違い意識的に行っていて、遠近法を経験してきた分背景の奥行や形態の厚み等、自在にコントロール出来るように発達してきた感があります。 内容 モチーフは基本的には静物。※人物との組合せも可(他の授業でのデッサンやクロッキーを参考に) エスキースを充実させ作品制作に入ります。			
週	授業計画 及び 学習の内容			
9	6/16前提講義 ドローイング・制作			
10	制作 6/26講評			
成績評価の方法				
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
別紙参照				
授業持ち物		学校で準備する教材など		
・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ・20号キャンバス		・モチーフ ・ドローイング用クラフト紙 ・TVモニター		
配付資料				

渋谷ファッション & アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現応用Ⅰ 絵画Ⅱ-6抽象表現研究	実習	加藤健二

授業の到達目標 (目標とする検定)	近代以降の絵画空間における多様性を知ると共に、抽象的表現の試みを通して絵画的アプローチのより幅広い見識を広げる。
----------------------	--

授業の内容	期間:9/8～18 AM/PM 計14コマ ・抽象的表現を試みた平面作品(25-30号)を制作する。 ・様々な作家による抽象作品を紹介し、作者の視点や制作アプローチの多様性について紹介する。 ・女性モデルを取材し、人体に内在する多様な造形要素の在り方や関係性に注目し、それらの要素を絵画的に いかに展開するかを試みる。 ・それぞれの視点や造形的興味のポイントを探るべく多様なテーマ「意外性」「固有色の解放」「要素化」「身体 性」などによるドローイングやエスキース制作を積極的に行い、新鮮な感覚との出会いを目指した平面作品へ の足掛かりとする。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
14	9/8前提講義 ドローイング・エスキース制作(ヌードモデル使用)
15	制作 9/18講評
16	制作研究期間 9/23休講、9/24～25 AMPM自由選択授業・美術館作品鑑賞 (出席を取ります)

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具) など ※筆や刷毛のバリエーションは重要 ・25-30号キャンバス(古キャンバス可) ・油絵具一式(アクリル絵具も可)	・ヌードモデル(女性)ムービング ・ドローイング用クラフト紙

配付資料

渋谷ファッション & アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現応用Ⅱ 絵画Ⅱ-7支持体研究	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	近代以降の絵画表現における多様な形態や素材による支持体の在り方を知ると共に、描かれるイメージと支持体の「形」との関係性についても意識し、新たな絵画空間への発想の足掛かりとする。
----------------------	--

授業の内容	期間:9/29～10/16 AM/PM 計22コマ ・キャンバス以外の素材の支持体を用いる事で、矩形のキャンバスに捉われない自由な形態や素材の絵画作品(30号程度)を制作する。 ・本課題のモチーフは自由。(静物、風景、人物、シュール、抽象など) ・その際に、他の授業でのデッサン(静物や人体など)やクロッキーなど参考としてもよい。 ・様々な作家による変形支持体の作品を紹介し、描かれるイメージと絵画の外形や成立ちとの関りを考える。 ・支持体にスタイロフォーム等のキャンバス以外の素材を利用し、自由な形態やテクスチャーを成形し下地処理を行なった後、アクリル絵具や油彩による描画を行う。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
17	9/29前提講義 ドローイング(エスキース) 支持体制作
18	制作
19	制作 10/16講評
20	学園祭準備期間 (出席を取ります)
	学園祭
21	学園祭撤収および制作研究期間 (出席を取ります)

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 ・ドローイング用具 - クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・アクリル絵具用具・油彩用具 ・カッター ・木炭 ・アクリルジェツソ ・スチロール用接着剤 詳しくは、前提講義にて説明する ※支持体(30号程度)の材料等は学校で用意します(有料)	学校で準備する教材など ・ドローイング用クラフト紙 ・スタイロフォーム(厚さ2種類) ・スチロールカッター
---	--

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現演習応用 絵画Ⅱ-8風景表現研究	実習	阿部達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	取材～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキース制作を入念に行い、基本的な絵画空間の造形的骨組みを探る。 モチーフへの多様な視点や思考、さらに自身が求める絵画空間について追及する。
----------------------	---

授業の内容	期間:11/4～20 AM/PM 計22コマ ・渋谷周辺など校外へ出て多様な情景の取材を基にした作品(30号)を制作する。 ・取材より得たクロッキーや写真資料などを基にドローイングを重ねエスキース制作を行う。 ・建造物などの風景や人物、それらを組み合わせた空間構成など自由。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
22	11/4 前提講義 ・校外への取材 ・制作
23	制作
24	制作 11/20講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 ・取材用具として、クロッキー帳や描画材、カメラ又はスマートフォンなど ・ドローイング用具 - クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・30号キャンバス(パネルも可) ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用も可)	学校で準備する教材など ・ドローイング用クラフト紙
--	--

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現演習応用 絵画Ⅱ-9絵画表現研究	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	卒業制作の前段階として、これまでの授業で養った視点や思考を基に、自身のテーマ・モチーフや表現性について模索する。また、自身が求める絵画空間を追及するにあたっての素材や技術的問題点などをあぶり出し、次作への足掛かりとする。
----------------------	--

授業の内容	期間:11/25～12/4 AM/PM 計14コマ ・テーマやモチーフは自由。 ・ドローイング2点以上又は小作品1点以上を制作する。 (ドローイングサイズはB2以上、小作品サイズは15号以上) ・各自で取材や資料集めを進め、小作品やドローイングの制作をとおして作品構想を練る。 ・本課題を通して修了制作への構想や技法・表現実験を積極的に試みる。 ※修了制作作品の下地準備なども可。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
25	11/25 前提講義
26	制作 12/4講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 ・各自の取材資料 ・ドローイング用の紙(B2以上)、キャンバス又は木製パネル(15号以上) ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用も可) ・その他必要な材料や道具など	学校で準備する教材など ・ドローイング用クラフト紙
---	--

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2025年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現終了制作 絵画II-10修了制作	実習	清水健太郎 中嶋明 菊地達也 結城康太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	1年間の学びの集大成として、それぞれの視点やテーマ・技術を含む造形的特性をしっかりと認識し、自立した制作者としての足掛かりをつくと共に、発表者として自身の作品を展示の在り方についての意識を高める。
----------------------	--

授業の内容	期間:12/8～2/5 AM/PM 計46コマ この一年間の学習の集大成となる作品を制作し修了制作展に出品する。 現時点での各人の制作スキルを活かし、制作テーマを考え集中的に作品を制作する機会が修了制作です。 ・テーマは自由で、50号以上の作品を制作する。 ・油彩・アクリル絵具、キャンバス、パネルなど画材・素材は自由。 ・積極的にドローイングやエスキースを作成し、教員と相談しながら自己の作品内容の方向性や掘り下げを行う。 ・作品の展示方法や額縁の在り方、タイトルなど発表に向けた準備についても吟味する。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
27	12/8前提講義・導入 ～エスキース
28	制作
	冬季休業
29	1/13計画書提出 制作
30	制作 中間講評(日程は別途お知らせします)
31	制作
32	制作
	修了制作展で講評を行います

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・50号以上のキャンバス又は木製パネル ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用可) ・その他必要な材料や道具など	学校で準備する教材など ・修了制作計画表用紙 (作品名・展示計画含む) ・ドローイング用クラフト紙
---	---

配付資料

中嶋明

経歴

1955 静岡県生まれ

1978 武蔵野美術大学大学院油絵研究科修了

1979-1981 東アフリカ、中近東、ヨーロッパ各国遊学

2001-2002 文化庁新進芸術家海外研修員としてエジプトに滞在 カイロ・コプト美術館で研修

2007-2008 文化庁新進芸術家海外研修員40周年記念「旅」展出品(国立新美術館)

2009 静岡県文化奨励賞受賞
武蔵野美術大学80周年記念「絵の力」ー絵の具の魔術ー展出品(武蔵野美術大学美術資料図書館)

2014 掛川市二の丸美術館にて「終わらない旅 中嶋 明展」

2024 茨城県境町 S-Gallery 肅粲寶美術館「旅の途中」展開催

その他 個展・グループ展 多数

現在 独立美術協会会員、女子美術短期大学非常勤講師、横浜美術大学非常勤講師

清水健太郎

経歴

1972 東京都生まれ

1995 工学院大学 電子工学科卒業

1999 武蔵野美術学園 油絵科卒業

2001～2005 武蔵野美術大学 助手(通信教育課程研究室)

2006～2009 武蔵野美術大学 文科省選定現代GP「造形ファイル」開発室 主任

現在 二紀会 会員

日本美術家連盟 会員

渋谷ファッション＆アート専門学校 専任教員

武蔵野美術大学 講師(通信教育課程油絵学科)

主な個展

2006 ギャラリーヴェルジェ(相模原)

2010 ギャラリー吉豊(銀座)

アートフォーラム千(福岡)

2012 ギャラリー檜(銀座)

2013 SAN-AI GALLERY(日本橋)

2014 コートギャラリー国立(国立)

2015 FEI ART MUSEUM YOKOHAMA(横浜)

2016 リベストギャラリー創(吉祥寺)

2017 光画廊(銀座)

2018 東京都美術館〈東京二紀展 特別展示〉(上野)

THE ARTCOMPLEX CENTER OF TOKYO(新宿) F.E.I Art Gallery(横浜)

2021 SAN-AI GALLERY(日本橋) 光画廊(銀座) F.E.I Art Gallery(横浜)

2022 ギャラリーあづま(銀座)

2023 コートギャラリー国立(国立)

2024 ギャラリーあづま(銀座)

2025 SAN-AI GALLERY(日本橋)12月予定

主なグループ展

1999～ 二紀展(以後毎年出品 03,奨励賞 07,同人推挙 11,同人賞 16,準会員賞 17,会員推挙 23,会員賞)

2004 多摩秀作美術展(青梅市立美術館)、伊豆美術大賞展(伊東市観光会館)

2007・2018 前田寛治大賞展(日本橋高島屋・倉吉博物館)

2019 第1回二紀会選抜台湾展(台湾・台北 国立臺灣藝術大学)

2017・2021・2022 「われらの地平線」展(日本橋三越)

その他グループ展多数

●作家HP <https://shimiken1008.wixsite.com/kentaro-shimizu>

●インスタグラム <https://www.instagram.com/shimiken1008/>

佐藤功

経歴

1972 岩手県生まれ

1999 武蔵野美術学園 夜間油絵科卒業

主な個展、グループ展

2001 第75回国展(以後毎年 /'07'19を除く)

2004 昭和会展招待出品(日動画廊)

2006 個展「レスポワール展」(銀座スルガ台画廊)

2007 多摩秀作美術展出品(賞候補)

2008 第82回国展 新人賞 準会員推挙

2009 リアリズムの世界展(飯田美術/以後毎年)

2010 佐々木豊と4人展(飯田美術/以後毎年)新・リアリズム宣言展(新生堂/'13 '15)個展(銀座スルガ台画廊)

2011 美は細部に宿る展(日本橋高島屋)

2012 三越美術特選会(日本橋三越本店)

2014 第88回国展 会員推挙 三越美術逸品会(ホテルニューオータニ)

2018 SINCE展(大阪高島屋/'20 '22) 神戸アートマルシェ(神戸メリケンパークオリエンタルホテル/川田画廊)

2019 個展(飯田美術)

2021 個展(日本橋三越本店)

2023 リアリズム展ー継承(日本橋三越本店)

2024 個展(北岡技芳堂)

◆ホームページ <https://isaosato.net/>

◆エックス x.com/Sato_Isao_

◆インスタグラム [instagram.com/sato_isao_55555](https://www.instagram.com/sato_isao_55555)

◆フェイスブック [facebook.com/profile.php?id=100009160388095](https://www.facebook.com/profile.php?id=100009160388095)

大 嶋 幹

経 歴

1971 埼玉県生まれ

1997 筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術専攻修了

現在 独立美術協会会員

主な個展

2003 Gアートギャラリー[銀座]

2004 ギャラリー風[銀座]

2006 アートプラットフォーム[東京・杉並]

2009 セイコウドウ[銀座]('11)

2012 画廊るたん[銀座]('17)

2018 川口市立医療センターミニギャラリー[川口市]('19)

主なグループ展

1996 独立展初出品

2000 独立展出品(以後毎年出品, 新人賞'12, 賞候補'14,'15,'16,'19, 奨励賞'18, 齋藤研賞'21, 海老原賞'22, 独立賞'23, 会員推荐'24)

2001 伊豆美術祭絵画公募展[伊東市観光会館]

2003 青木繁記念大賞公募展[福岡・石橋美術館]

トーキョーワンダーウォール2003[東京都庁]

2005 天理ビエンナーレ2005[天理特設会場]

2007 美浜美術展(第20回記念特別賞)[関西電力原子力事業部本部ギャラリー他]

2008 あさご芸術の森大賞展('10)

2011 CAF.ネビュラ展[埼玉県立近代美術館・埼玉]('12,以降隔年)

2015 春季独立新人選抜展・選抜展賞('19)[東京都美術館]

Weg展 [シロタ画廊・銀座]('16,'17,'18,'19,'21,'23,'24)

2022 「美術は今、対峙する16の画面vol.4」[東海ステーションギャラリー]

その他グループ展多数

菊地達也

経歴

1956 宮城県生まれ

1984 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業 卒業制作 サロン・ド・プランタン賞受賞

1986 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了

1987 東京芸術大学大学院美術研究科研究生修了

展覧会

1986 菊地達也展(真和画廊)

1989 上野の森美術館大賞展賞候補(上野の森美術館／上野)に出品
国展(東京都美術館／上野)に出品
以後、毎年出品(91,92,93年に賞候補)

1991 国際美術大賞展に出品

1992 上野の森美術館大賞展(上野の森美術館／上野)に出品

1994 国展国画賞受賞

1995 国展受賞者展(サエグサ画廊／銀座)に出品
国展 新人賞受賞・会友推挙
東京セントラル美術館油絵大賞展に出品大賞受賞
菊地達也展(JBC画廊)

1996 国展受賞者展(サエグサ画廊／銀座)に出品
菊地達也展(JBC画廊)

1997 みやぎ秀作美術展に出品 ～1998

1998 菊地達也展(JBC画廊)

1999 上野の森美術館大賞展(上野の森美術館／上野)に出品優秀賞受賞 同美術館収蔵

2000 上野の森美術館大賞展入賞者展(吉井画廊／銀座)に出品
国展準会員優作賞受賞
菊地達也展(ギャラリー銀舎)
上野の森美術館大賞展入賞者展
(日本IBMコンピューターギャラリー／幕張)に出品

- 2001 文化庁主催第34回現代美術選抜展に出品
第36回昭和会展(日動画廊本店／銀座)に招待出品
ふるさと美術展(石巻文化会館)に出品
菊地達也展(ギャラリー銀座)
国画会75周年記念新人選抜展
(アートミュージアムギンザ／銀座)に出品
- 2002 第37回昭和会展(日動画廊本店／銀座)に招待出品優秀賞受賞
国展 会員推挙
東京国画会員展(日本橋高島屋)に出品 以後、毎年
日動展(日動画廊本店／銀座)に出品 以後、毎年
- 2003 第38回昭和会展(日動画廊本店／銀座)に賛助出品(～04年)
第40回太陽展(日動画廊本店／銀座)に出品 以後、毎年
上野の森美術館大賞展20年—作家の視点—
(上野の森美術館／上野)に出品
新たなる視覚展(日動画廊／福岡)に出品
現代洋画展(日動画廊／福岡)に出品
- 2004 日動展(日動画廊本店／銀座)に出品 以後、毎年
- 2006 個展 (日動画廊本店／銀座)
- 2007 個展 (藤崎デパート本館／仙台)
- 2008 ART WAVE 2008 in 仙台 (仙台メディアテーク)
- ART WAVE 2008 in 五島 (五島市笠松宏有記念館／長崎県五島市)
- 2009 富士山を描く展 (ギャラリーるたん)
- 2010 個展 (日動画廊本店／銀座)
- 2012 15の眼展 (光画廊／銀座) 以後、毎年
- 2014 個展 (仙台三越)
- 2016 サंकウ展 (ギャラリーサムホーム／銀座)
- 2017 春の会展 (ギャラリーサムホーム／銀座) 以後、毎年
- 不思議がいっぱい 迷宮の絵画展 (笠間日動美術館／茨城県笠間市)

加藤健二

経歴

1953 北海道網走郡津別町に生まれる

主な個展

2010 CENTRAL UTA ART CENTER(ユタ州、アメリカ、企画 11月)

2012 ANNEX ART SPACE IN Hpgrp(ニューヨーク、アメリカ 11月)

2014 ANNEX ART SPACE IN Hpgrp(ニューヨーク、アメリカ 11月)

2016 ギャラリーCreate 洛（京都 11月） ギャラリーGK（銀座、東京、10月）09,11,12,13,14,15にも開催
コートギャラリー国立（東京 7月）

2017 ギャラリーGK（銀座、東京 10月）櫟画廊（銀座、東京 6月）

2018 d-lab gallery（入間市、埼玉 12月） ギャラリーGK（銀座、東京 10月）櫟画廊（銀座、東京 6月）

2019 ギャラリーCreate 洛（京都 1月） ギャラリーあづま（銀座、東京 5月） ギャラリーGK（銀座、東京 10月）

2020 ギャラリー木蓮（入間市、埼玉 3月） ギャラリーあづま（銀座、東京 6月） ギャラリーGK（銀座、東京 10月）

2021 ギャラリーCreate 洛（京都 1月） ギャラリーあづま（銀座、東京 6月） ギャラリーGK（銀座、東京 10月）

2022 銀座スルガ台画廊（銀座、東京 1月） ギャラリーあづま（銀座、東京 5月）
アートギャラリー呼友館（川越、埼玉 9月） ギャラリーGK（銀座、東京 10月）

その他

ギャラリーセンターポイント、ギャラリーイセヨシ、銀座スルガ台画廊（東京）

ギャラリーMOVE(横浜)、VIVRE八戸、ピアノバビル八戸（青森）、札幌時計台ギャラリー、釧路ミヤタ画廊

北見商工会議所（北海道）、パリ、シテインターナショナル、デ、ザール（フランス）など

主なグループ展

2005 ウィスコンシンンの作家との交流展（マジソン、グリーンベイ、ウエストベンド美術館）

2008 ウィスコンシン、埼玉芸術協会交流展（埼玉県立近代美術館）

2009 TOP RUNNER展（hpgrp gallery,ニューヨーク、アメリカ）

2010 ART NOW (福岡アジア現代美術館、九州) 09、滋賀県立美術館、仙台メディアテーク、宮城)

2013 埼玉国画会員展 (ギャラリー・ユニコーン、川越、埼玉)

2014 韓国 大渚湖美術館 企画展招待出品 4月 ウィスコンシンと埼玉の作家交流展 (文房堂ギャラリー、東京)

2015 WAVE NOW15 (井上画廊、銀座) 2005から札幌コンチネンタルギャラリーと交互に開催

2016 国画会・オホーツクの作家展 (網走市立美術館、北海道) 10月

ウィスコンシンの作家との交流展 (マジソン Pro mega Gallery アメリカ 6~9月)

国画展 (新国立美術館、六本木、東京) 1982から、84、国画賞、97、会友優作賞、現在会員

華東師範大学美術学院美術館 (上海、中国) 3月

2017 CROSS WAVE展 (櫛画廊、銀座、東京) 国画展 (新国立美術館、六本木、東京)

2018 CROSS WAVE展 (コンチネンタルギャラリー、札幌、北海道)

国画展 (新国立美術館、六本木、東京) 寿ぎ-描き初め展 (画廊 憩ひ、佐賀、九州)

2019 国画展 (新国立美術館、六本木、東京) CROSS WAVE展 (ギャラリー暁、銀座、東京)

2020 第10回 輪展 K'sギャラリー (銀座、東京 3月) 福岡現代美術展 (福岡県立美術館)

2021 9人のベル・エポック展 コートギャラリー国立 (東京 1月) アートスペース カワモト開廊展 (富山市、福井県 1月)

第11回 輪展 K'sギャラリー (銀座、東京 3月) 第95回 国画展 (新国立美術館、六本木、東京)

TAKE FIVE 2021 GALERIE SOL (銀座、東京 6月予定)

CROSS WAVE展 (コンチネンタルギャラリー、札幌、北海道)

2022 第12回 輪展 K'sギャラリー (銀座、東京 3月) 第96回 国画展 (新国立美術館、六本木、東京5月)

TAKE FIVE 2021 GALERIE SOL (銀座、東京6月)

ベル・エポック展 ギャラリー向日葵、あずま7月) CROSS WAVE展 (ギャラリー暁、銀座、東京10月)

その他

第五回中日友好交流展 (武漢、中国)、 安井賞展 (セゾン美術館、池袋) ASIAN ART NOW2001(ラスベガス、アメリカ)

第31回文化庁主催 現代美術選抜展 (愛知、石川、岡山) 現代美術新進作家展 (網走市立美術館、北海道)

オホーツク秀作美術展 (北網圏北見文化センター美術館、北海道) 北網圏北見文化センター美術館所蔵作品展 2005、2012など

現在 東京家政大学非常勤講師 元武蔵野美術大学非常勤講師

阿部達也

経歴

1974 東京都青梅市生まれ

1999 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

2004 二紀展初出品

現在 二紀会会員

主な個展

2021 東京二紀展「10人の選抜作家」(東京都美術館)

主なグループ展

2016 「2月の出会い展」(銀座アートホール)

2019 「第8回 われらの地平線」(日本橋三越本店)

2020 「BEYOND—4人の現在とその先—」(ギャラリー絵夢)

2021 「第9回 われらの地平線」(日本橋三越本店)

2022 「BEYOND—4人の現在とその先—」(ギャラリー絵夢)

2024 「ノスタルジア—記憶の中の景色」(東京都美術館)

「BEYOND—3人の現在とその先—」(ギャラリー絵夢)

・ インスタグラム [instagram @tatsuya._abe](#)

結城康太郎

経歴

1967 京都府生まれ

1991 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

本学美術科助手を経て、芸術文化学科非常勤講師

アルミ板を支持体にアクリル絵の具による絵画制作

現在、独立美術協会会員

主な個展

2004 あかね画廊(東京)

2008、1017 コートギャラリー国立(東京)

2013 アトリエスズキ(東京)

2016、2018、2021 櫻木画廊(東京)

2020 ギャラリー暁

2021、2022 M16ギャラリー

2022、2023 ギャラリーVent

2024 アート空間スカーラ

主なグループ展

2005 「上野の森美術館大賞展」上野の森美術館(東京)

2012 「CAF'N展」埼玉県立近代美術館(埼玉)

主な受賞歴

2005 「上野の森美術館大賞展」優秀賞

2008 「独立展」損保ジャパン奨励賞

2012 「独立展」小島賞

2013 「独立展」独立賞